

## 茅ヶ崎西浜高等学校 令和7年度始業式あいさつ

皆さん、改めておはようございます。  
今年度が始まるにあたり、二つお話をします。

はじめは、「いのち」についてです。  
これまで、何度となく命の大切さについて話を聞いてきたと思います。  
今日は私なりの言葉で、命の大切さをお話ししたいと思います。  
宇宙が始まってから今まで、約130億年といわれています。  
皆さん一人一人の命が生まれたのは、この130億年でたった1回だけです。  
さらに、宇宙に終わりがあるとしたら、皆さん一人一人の命が生まれることは、  
今後一度もない、ということです。  
皆さんのが生まれたということは、奇跡に近いのです。  
さんの命は奇跡的に生まれたものであり、その体は、その奇跡を保ち続けて  
いる大切なものです。  
また、自分以外の命も奇跡的に生まれたものなので、ここに集まった皆さんは、  
奇跡の集合体、という言い方もできるかもしれません。  
どうか、宇宙が生まれてから1回しか起こらない自分の奇跡と、仲間の奇跡を  
大切にしてほしいと思います。

次に、校歌にある言葉についてです、  
本校の校歌の2番に、「気高さと誇り」という言葉があります。  
一方、茅ヶ崎西浜高校の先生方が、教育の目標としているものの中にも、「気  
品と誇り」という言葉があります。  
「気高さ」と「気品」と言葉は若干異なりますが、両方とも同じことを表して  
いると考えてよいでしょう。  
ですから、「気高さ」と「誇り」は本校にとって、とても大切な言葉なのです。  
「気高さ」や「誇り」って、どんなものでしょうか。  
「気高さ」や「誇り」を考えるよりも、気高さがある人や、誇りを持っている  
人を想像するほうが理解しやすいでしょうか。  
気高さのある人とは、高い目標をもって、それに向かって努力している人でし  
ょうか。  
ほかの人を助けることを率先して行動する人のことでしょうか。  
自分に妥協しない人のことでしょうか。  
また、誇りを持つ人とは、取り組んだことをやり切り、実績のある人でし  
ょうか。

だれにも負けないと思えるほど、物事に取り組んできた人でしょうか。  
取り組んできたものに対して、大切な思いを持っている人でしょうか。  
一言で表現しようとすると、どの言葉も本当の意味が正しくあらわされない  
ような気がします。

内面からにじみ出る行動や振る舞いが、目に見える気高さや誇りのある人の  
言動になってきます。

そこで皆さんにお願いすることは、気高さのある人になるにはどのようなこ  
とをすればよいのだろうか、誇りのある人になるにはどのようなことをすれば  
よいのだろうか、ということを常に自分に問いかけ、そして行動してほしいと思  
います。

気高い人や、誇りを持つ人になるというのは簡単な目標ではありません。

しかし、一般的に、先生が生徒の皆さんに目標を設定する場合は、まったく届  
かない目標にしません。

つまり、皆さんには、「気高さ」がある人や、「誇り」を持つ人になる、とい  
うことは、実現可能な目標だと考えています。

「気高さ」と「誇り」については、機会があるたびに、お話していきたいとお  
思います。

それでは最後にもう一度、「気高さ」と「誇り」！

以上です。